



HP「辻よし子と歩む会」で検索



「辻よし子と歩む会」

☎ 190-0154

あきる野市高尾 182-1 佐橋方

電話 & FAX : 042-596-4569

e-mail : kusasigi@nifty.com

共同代表 : 柏倉倫子・青木真知子

小さな声に耳をすまし、大きな力にひるまず！

「あきる野市公共交通に関する条例」 の審議を傍聴して

自民党志清会の議員さんたちが「あきる野市公共交通に関する条例案」を提出されたという話を聞き、どんな条例案か知りたいと思って環境建設委員会を傍聴した。すると、提案者と辻さんのやり取りを通じて、条例案に大きな問題点のあることが見えてきた。

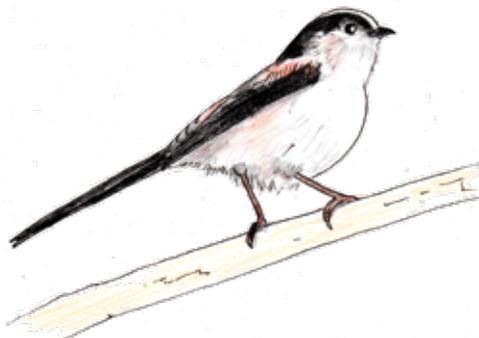
まず、手続き面。提案者はパブリックコメントを実施したと大いにアピールしたのだが、その実態たるや、本来は公的機関が行うべき募集を志清会広報紙上で言い、応募は2件。しかもそれらの意見を議会に資料として提出していなかったという。つまり到底パブリックコメントと言える物ではなかった。

さらに深刻なのは条例案の中身だ。市を「市長その他の執行機関」と定義したために、「市は公共交通に関する基本施策を策定し…」とした時、その「市」に、基本施策を議決する「議会」が入らなくなり、あろうことか「議会」を市民や事業者等と同列に置いて、意見聴取の対象者にしてしまっている。

もうひとつ、見過ごせなかったのは、議会の責務として、「議会は市と連携して、市が実施する基本施策の推進を図る…」とあったこと。「連携して」はオカシイ。議会は基本施策を「市」（市長その他の執行機関）が個別の施策として具体化する時、その妥当性をチェックする立場にある。連携なんてしていたら、地方自治の二元代表制の大原則が根本から崩れるだろう。

残念ながら、この問題がある条例案は数の力で通ってしまったが、提案の意図はよく分かるので、早々に改正をお願いしたい。

(H・K 草花在住)



あきる野に相応しい産業とは？

秋川高校跡地開発について、行政にヒアリングして市民に情報を提供する活動をしています。夕日を受けたメタセコイア並木が本当に好きで、この景観を大事にしたいという思いがベースにあります。

3月末まで実施したアンケートで回答者から、「あきる野は市街化調整区域が多いですね」という何気ない発言がありました。都市計画法では、無秩序に都市が膨張することを防ぐため、市街化するエリア（市街化区域）と市街化を抑制するエリア（市街化調整区域）が設定されており、市街化調整区域はすなわち「農地や自然環境を保全するエリア」と捉えることができます。

市はこれまで、市内産業の弱さが財源不足に繋がっているとし、高校跡地への産業誘致の根拠としてきました。しかしそれは、東京都の都市計画において、あきる野市が「市街化調整区域」という自然や農地を保全する場所として意味付けられてきたという地域性が大きく影響しています。それゆえ商業や工業地域が少なく財政が潤わない、という発想になりがちですが、逆にそれは、市街化調整区域ならではの農や自然を活かした産業を育ててこなかった、ということもできると思います。今後は「あきる野に相応しい産業とは何か」市民として考え、市と共有していきたいです。

あきる野市の市民参加のまちづくりは、まだスタート地点にも立っていないと思います。行政は税金を使って動く性質上、失敗を恐れて前例踏襲の無難な対応になりがちですが、一方私たち市民はノーリスクです。住民が少しずつ時間やスキルや知恵を出し合い、行政の背中を押しイノベートしていければ、と思います。

(T・K 小川在住)

オーストラリアでの 16 歳未満 SNS 禁止に想う

昨年末、オーストラリアでは 16 歳未満の子ども達による SNS の利用を禁止する法案を可決しました。私が所謂ケータイと呼ばれるものを初めて持ったのは、20 年ほど前、家族の長期入院の際、緊急時の連絡手段としてでした。それが今ではどんどん「進化」していき、赤ちゃんの頃から身近にあり、触れてきたスマホ。現在の子どもたちにとってスマホを使うことは会話をすることと同様に、“危険なモノ”の感覚は無いのかも知れません。

あきる野市でも数年前から小学校では学習のツールの一つとしてタブレットが使われています。本のページを捲ったり、鉛筆を握ったり、他にもいろいろとそれに付随した三次元の動作を行うことなく、二次元のタブレットを使えば、キーボードやスクリーンをタップしたり指でなぞったりするだけで、それらが瞬時に出来てしまいます。ただ、やはり五感に刺激を受け、そして成長するということが、幼少期においては重要で、年齢が高くなってからでは難しくなるのではないかと思います。野に出て昆虫やトカゲなどを捕まえ、それを飼育ケースに入れて触ったり、餌をあげたり。その時間や空間にワクワクしながら得られる刺激と、画面をタップして餌をあげ、遊んであげて「はい、また明日」と、電源をオフにしてしまう感覚からは、育つものが同じだとは思えないのです。

また、何より怖いのは、我々大人でも騙されてしまう二次元上でのやり取りです。そこに最大の危機感をもったオーストラリア政府の決定が今回の法案です。オーストラリア政府から投げ掛けられた問いを私たち大人はどう受け止めるべきなのか、今後の日本に注目していきたいと思います。

(M・M 秋川地区在住)

無党派
一人会派

辻よし子・プロフィール

1960 年生まれ。小学校教員を経て、ボランティアとしてタイの農村教育に関わる。1995 年よりあきる野市に暮らす。「川原で遊ぼう会」を中心に市内の環境保全活動に取り組む。3.11 以後、脱原発の市民活動を始める。2015 年 10 月の補欠選挙で初当選。現在 10 年目。夫、次男、ネコ 1 匹と草花に暮らす。

自衛隊は「軍隊」だ ～中学生にも、きちんと教えよう～

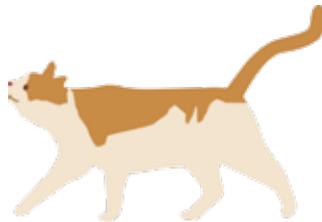
市内の某中学校の話。

2 年生の進路についての授業で資料が配布されたという。見せてもらって驚いた。卒業後の進路として、高校、専修・専門学校、就職等と並んで、「陸上自衛隊」というのがあったからだ。

説明文には「採用されれば“自衛隊生徒”と呼ばれ、高等工科大学（神奈川県横須賀市）に入学することになります。給与が支給されます。自衛隊生徒は合格率 6 倍以上です。」と書いてある。物価高その他で家計のやりくりで苦労している家庭が多い今、この説明文を読んだら「じゃあ受けてみようか」と考えても不思議はない。

しかし、この説明には大事なことが抜けている。それは「自衛隊の本質は軍隊だ」ということ。陸上自衛隊なら戦車の操縦や射撃の訓練もするだろう。つまり、敵とされる人を殺す訓練をすることになる。進路指導の中で、あるいは授業の中で、そのことをちゃんと説明しているだろうか。

今、世界のあちこちで戦争があり、多くの人々が殺されている。日本も莫大な予算を注ぎこんで軍備を増強し、米軍と一体となって基地を造り、広げ、軍事演習を繰り返している。「戦争は海の向こうのこと」などと言っていられない現実が目にあるのだ。そんな中、一般的な進学や就職と同列に、自衛隊への入隊を紹介する神経が、私には理解できない。



戦後 80 年、「教え子を戦場に送るな！」と声を上げる教員は、もういないのだろうか。(S・K 高尾在住)

「辻よし子と歩む会」

会員募集中！

年会費：1,000 円（カンパ歓迎！）

郵便振替

加入者名 辻よし子と歩む会

口座番号 00140-9-430053

ゆうちょ銀行(店番)〇一九(ゼロイチキュウ)店(019)

当座 0430053

※前号でお知らせした口座は、振込まれた方の連絡先が記載されない等、利用し難い点があるため、上記の通り、元の口座に戻すことにしました。

